



例会

10月1日（日）

10：00～12：00

森の里公民館3F会議室

懇談会・ビデオ

9条改憲、原発、ウクライナ侵略戦争、物価高、地域の問題などについて話し合い、共感し合いませんか。

「9条改憲、原発、ウクライナ侵略戦争、物価高、地域の問題などについて話し合いませんか？」

8月27日（日）

今月も前回に引き続き、NHK「シリーズ太平洋戦争と日本人」から、『ボクラ少年国民』作家山中 恒（ひさし）子どもから見た戦争』を見て、戦争について考えました。

子ども向けの読み物作家山中恒のライフワークは少国民の研究だ。歴史の年表や政治史をたどるだけではうかがい知ることのできない、戦争中の子どもたちの暮らしを初めて体系的に明らかにした。一億層懺悔で始まった戦後。多くの日本人は戦中の生き方を切り捨て、新しい価値観を選んだ。しかし山中はいつも違和感を感じ続けた。切り捨てたい歴史の中にこそ学ぶに値する真実があるのではないかと。ボクラ少年国民を書き始めた理由だ。（ビデオより）

▼山中さんだけが特別だったのではない。市民も同じように思っていた。▼終戦を境に国民は、国にだまされた。全うにものを見るようになった。しかし戦後78年も経つとその意識も薄れ、戦前と

同じような道を歩んでいる。福島第一原発の汚染水の問題も同じだ。

▼今のロシアもかつての日本とそっくりだ。祖国のために死ぬことは怖くないと教えたり、日本の高校にあたる歴史教科書を書き換え、ウクライナ侵略を正当化したりしている。軍事訓練もやっている。

▼俳優の齊藤とも子さんは、次のように言っている。「日本はハッキリものを言わない国で、汚染水であるものを処理水とい、”原発最大限活用法”をGX（グリーントランスフォーメーション）脱炭素電源法と言いつい換えた。信じられないような法律が国会で成立する。知らないうちにどんどん日本が間違った方向に進んでいる。」

▼今では考えられないこと。日本が勝つのだと言ったことを実感していた。いけないことはいけないとは、あの時代は言えなかった。

▼天皇が少しでも早く戦争を終わらせる決断をしていなければ、広島・長崎の原爆投下はなかったが、一言も謝罪することなく死んでいった。

▼軍国少年を育てていたのを見て怖かった。

▼巧妙にだまされていた。▼戦争の本質は殺し合いで怖いと思つた。

▼戦争で死ぬのは末端の人間だ。

▼治安維持法の時代に真実を見抜いていた人がいたことは、すごい。

▼戦争体験を知らない人たちが勇ましいことを言っている。

▼戦争反対を叫んでいるが、非国民と言われたら、それを貫けるかどうかわからない。

▼署名活動をしていても署名してもらえない。その風潮はどこから来ているのか。

▼今細々と署名活動やニュースの配布をやっているが、無駄ではないと思う。

▼小さなことでも自分にできること、スタンディングや署名活動などを、草の根の運動として続けたい。

スタンディングと署名活動のお知らせ

日時：10月15日（日）10:00～11:00

場所：スーパー三和前

★どなたでもお気軽に参加大歓迎です。

★手作りの表示板の用意あります。

例)「キンダ政治を許さない！」

「9条壊すな！」

「NO WAR！」

「大軍拡・大増税反対！」

中止しました

8月20日のスタンディングと署名活動は、森の里夏祭りの片付け時間帯と重なったため、中止しました。

読者の広場



100年たっても

海洋放出を考える

議論は13年間

1979年のスリーマイル島原発事故では、トリチウムを放出基準以下にした処理水を川へ流す方針でした。しかし住民から反対の声が上がったため、「助言委員会」と言う組織が作られました。それは原発の科学者、大学関係者、普通の主婦12人からなる委員会で、話し合いの様子はテレビでも放送されました。市民を巻き込んだ議論は13年間で78回に及んだそうです。そして最終的には、処理水を蒸気にして放出することになりました。

※1

理解を得られたのか

8月24日、東京電力福島第1原発の処理水の海洋放出が始まりました。これに対して市民が、「汚染水を海に流すな!」と、放出反対の声を上げたり、漁業者の「政治家は理解を得られたと

言っているが、どこで理解を得られたのか。」との声を聞いたりしている。政府と東電が関係者の声を十分聞いたとは言えないと思います。※2

30年では終わらない

放出期間は約30年間とされていますが、ジャーナリストの青木理さんは、「多分30年では終わらない。」と言います。なぜなら汚染水は、事故で溶け落ちた核燃料「デブリ」を冷やすためにできません。したがって880トンの溶け落ちた核燃料を取り出さない限り、汚染水の放出は続くわけです。まだ1グラムも取り出せていないので、100年たっても取り出せないのではないかと私は思います。※2・3

責任逃れ

また経済学者の金子勝さんは、次のように言っています。「NHKの報道を見たが、ひどい。トリチウムだけの話をしている。」「ストロンチウムとかセシウムとか、核種の濃度を公表していない。」「原発事故は、取り返しがつかないということを示したくない。責任を取りたくないわけだ。だからデブリは取り出せると言っただけで、責任逃れをしている。過去の失敗の責任を取らないから、どんどん失敗を繰り返している。」「鋭い指摘です。※3

モルタル固化

さらに法政大学前総長田中優

子さんは、「専門家も入れた組織である原子力市民委員会が、モルタル固化がよいと言っているが、それについて検討せずコストの問題から海洋放出の判断をした。」と述べています。モルタル固化は汚染水をセメントと砂でモルタル化し、半地下の状態で保管する方法で、アメリカで実用化された例があるそうです。いい案だと思います。※2

重要なのは対話

スリーマイル島原発事故で事故処理に携わった米原子力規制委員会元幹部レイク・バレット氏は、福島第一原発事故の2年後に来日し、次のように指摘しました。「東電が改善しなければならぬのは、国民や世界とのコミュニケーションだ。」「日本政府や東京電力は、公聴会や委員会を開き、色々な形で国民に伝えようとしたが、常に格式張っていて、双方向のやりとりがないように見える。」「重要なのは対話だ。」※1

聞く力の対象は

レイク・バレット氏の指摘や、海洋放出に反対する市民・漁業者の声に、岸田首相は自慢の聞く力を発揮できるか。答えは、できないに決まっています。なぜか。それは聞く力の対象が身内のみで、国民ではないからです。

3・11を教訓とせず、政府は原発の再稼働や新增設をしようと

しています。政府が理解不能なことをするのは、私たちの怒りが不足しているからではないでしょうか。今はあきらめや無関心、冷笑ではなく、もっと怒りが必要だと思います。 KI

※1 TBS「報道特集」

2023.8.26

※2 TBS「サンデーモーニング」

2023.08.27、09.03

※3 文化放送「大竹まこと・ゴールデンラジオ」2023.08.25

※事務局では皆さんからの一言を募集しています。身近なエピソードやつぶやき、森の里のトピックなど、何でもよいのでお寄せ下さい。先にお配りした葉書もご利用ください。



アゲラタム